

国際金融セミナー「人民元国際化と東京金融市場」

2012/10/11

渡辺専務理事 開会のあいさつ

日頃より、国際通貨研究所をご支援頂き、また三菱東京 UFJ 銀行をご愛顧頂いている皆さま、本日は国際金融セミナーにお越しいただき、誠にありがとうございます。主催者、後援者を代表しまして厚く御礼申し上げます。

又パネリストの皆様には遠路、或いは公務ご多用の折にも拘らず、お越しいただき、厚く御礼申し上げます。

今回の本セミナーは、1964 年以来約半世紀ぶりの日本での IMF 世銀総会の記念イベントとして開催いたします。金融に端を発した不安な時期のさなかでの開催ですが、東京会議が、実りあるものとなり、金融の安定を取り戻し世界経済を均衡ある成長軌道に戻す建設的なダイアログの場となることを心から願っております。

当研究所では、通貨、金融問題に焦点をあてて、研究を行い、これまでアジア金融市場の安定や AMU などについて様々な提言をまいりましたが、今後、金融の安定に欠かせない要素として、

新興国通貨の国際化があると考えております。わたくしが金融・経済作業部会のメンバーを務めます APEC ビジネス諮問委員会では、先月のウラジオストックの APEC 会合において、ロシア、中国のカウンターパートとともに、新興国通貨の国際化を推進する共同提案を行いました。ルーブルの国際化は国策として進められていますが、人民元の国際化も、その貿易や経済規模から最も注目され期待されています。

米ドルの安定は、引き続き世界経済にとって、重要な課題ですが、アジア太平洋地域の金融市場の安定および持続的成長には、ドルの基軸通貨としての役割堅持と共に、円や人民元など地域通貨が安定し、広く利用されることが不可欠であると考えます。中国政府が進めている人民元の国際化は、中国の金融市場の安定が成し遂げられて初めて実現し、そのことは、地域金融市場の安定のアンカーに中国がなっていくための重要なステップです。今後、貿易取引の人民元建てや人民元による国内外の資本取引も間違いなく拡大していくでしょう。すでに香港市場では、オフショアの人民元取引が活発におこなわれ、人民元の国際化は、我々の予想を上回るスピードで進んでいます。

こうした中で、東京、上海市場で円元為替の直接取引が 6 月に始まりました。アジアの二大経済大国である日本と中国の通貨交換がドルを介さずに行われるようになったことは、地域金融の安定にとって、極めて意義深いことです。そして、それは東京金融市場にとっても国際化を進め、円の利用を拡大する絶好のビジネスチャンスと言えるでしょう。しかし、立ち上がったばかりの市場は、取引量はそれほど大きくなく、市場機能を強化し、グローバルなビジネス展開をしているより多くの企業に資金調達や為替ヘッジに利用していただけるよう、規制、ルール、決済などでよりよいプラットフォームを整備していく必要があります。

こうした問題意識にたち、本セミナーを開催いたしました。本日は、人民元国際化に関する課題について、官民を代表する方々から御意見をいただき、その上で議論を致します。このセミナーで実務的で有意義な議論が展開され、本日お越しいただいた皆様にとって、有益なものとなることを期待して、わたくしの開会のあいさつに代えさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。